様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０６３６

研究課題名（和文）医学英語教育の基礎研究：ICT利用の有機的統合的教材開発

研究課題名（英文）Fundamental Study of English for Medicine: ICT-Based Integrative Material Development

研究代表者
樋口　晶彦（Higuchi, Akihiko）

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・教授

研究者番号：２０１８９７６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：　まず第一に、医学英語の専門用語の語構成を研究してそれを医学の分野別にまとめたこと。次に、医学における症状、痛み、薬学の基礎的学習事項を必要な限り提言したこと。さらに、医者ー患者、また看護師ー患者との間における対話を実際の医療現場を想定して対話として提言したこと。これらの諸点を統合的な教材として「First Aid! 看護英語の総合的アプローチ」として出版したことが考えられる。
　第二に、医学英語、看護英語に関する口頭発表を国内の学会において二回実施したことが挙げられる(JACET)。さらに、 国外はマレーシアの国際学会において口頭発表した。これらの二点が本研究において研究成果として考えられる。

研究成果の概要（英文）：First of all, this study summarized the following items in English for medicine: such as 'word structure' in English for medicine, basic symptoms, pains, fundamental knowledge of medicine, and doctor-patient, or nurse-patinet talks in hospital. These items were finally included into a textbook and published in First Aid!: Integrative approach to English for Nursing by Kinseido Publishing Co. Then secondly, the author of the textbook made oral presentation twice in Japan: one for English for Medicine at Seinan Gakuin University (JACET), and the other for English for Nursing at Kumamoto University (JACET) conferences. He also made his oral presentation in an International Conference in Malasia in 2014.

研究分野：応用言語学

キーワード：ＥＳＰ　医学英語　看護英語　医学語語構成分析　痛み、症状分析　看護英語教科書出版

１．研究開始当初の背景

1.1. 本研究に関する内外の動向

・ 医学目的の英語（EMP：English for Medical Purposes)の教材は最近では伝達中心で四技能(読む、聞く、書く、話す)を駆使したものとなっている。例えば、McCullagh & Wright (2008)の *Good Practice*、Gledinning, や E.H, & Holmstrom, B, A.S.(2005) の *English in Medicine*. などは伝達中心でかつ四技能を駆使し、タスクを含めた学習者中心の内容になっていて、双方の教材には共通した教材の一貫性をみることができる。

・ こうした EMP の教材は、CLT の教授法に基づきながらもタスクを中心とした教材になっていて、BMJ (British Medical Journal)、他 authentic な学術雑誌からの論文や読解の英文が含まれている。これはタスクを重視した Skehan, P. (1996) の研究の影響が考えられる。

・ こうした EMP の教材研究は近年海外では著しいが、日本においては EMP の教材研究はまだ比較的新しい。したがって、日本人のための EMP 教材の種類や内容なども十分なものではなく、一貫性にも乏しい。医学部において必要とされる英語の語彙、語法も含めて、何が医学英語において求められているのかの基礎的な研究が必要であり、それに基づいた教材開発を進める必要がある。

・ こうした教材開発は、単に語彙、語法だけに特化してはならない。四技能を含めて ICT を利用した統合的な教材が求められていて、かつ日本人英語学習者を中心としたものでなければならない。

1.2. 本研究着想に至った経緯

・ こうした状況の中、筆者は 2007－2008 年度において、科学研究費助成を受けて「日本の外国語教育改革」の研究に携わった。そして、韓国、EU の CEFR などの言語政策、外国語教育政策、教育支援制度などがかなり進展している一方で、日本の高等教育機関における学術英語教育（EAP）がかなり遅れをとっている印象を強くもつようになった。

・ 実際、高い英語能力をもって入学した医・歯学部の学生に対して必要とされる EMP 教育が本学のみならず、多くの国立大学の医・歯学部においても十分実施されていない現状が存在する。この大きな理由は、EMP の内容や教授法、評価法などの知識が担当の英語教員に圧倒的に不足していることが考えられる。こうした理由から現在でも EMP 研究の必要性を痛感している。

・ こうした状況下、筆者は 2009 年 8 月 1 日－15 日までエジンバラ大学で 40 時間の「医学英語教授法」を受講してきた。しかし、自費だったために文献、資料、CD など満足な収集ができなかった。どうしても EMP の基礎的研究のためには、研究助成が必要であることを痛感させられた。

・ そのような時期を経て、ようやく 2010 年度に科学研究費助成の採択を受けることが出来た。この採択によって本格的に EMP 教育の教材開発研究に取り組むことが可能になった。そして、2012 年 10 月にようやく看護英語の教材開発の結果、拙著、*First Aid! 看護英語への総合的アプローチ*（金星堂）を出版した。科研費の御陰で念願の研究の第一歩が完成した。

・ 次の研究段階として看護師から次は医者を中心とした EMP 教育の基礎的研究を進めていく段階に入った。そのためには、大学英語教員のみならず、専門知識を有する医学の専門家も含めて進めていくことが肝要である。そして何が日本の EMP 教育に求められているのか、何をどのように系統立てて指導することが求められているのかを研究することが大切である。本研究は、医者に焦点を当てて、大学の専門課程への橋渡しとした大学医学英語教育において、有機的統合的教材開発を目指すことになった。

２．研究の目的

研究期間内の目標

・ 3 年間にわたる科研費に基づいた EMP 教育の基礎研究において、どのような内容が求められているのかを知るために、大学の医学部、歯学部、看護学部などの学生及び教員に対する Needs 分析を実施した。その結果、大学の半期 15 回の講義においてさらに、通年の場合、30 回の講義において、EMP 教育における四技能の内容を絞り込んでいくことが必要なことがわかった。

- それらは、doctor-patient talk において代表的な語法、表現方法(language focus)を明確にすること。どのように患者と対話において接触することが言語的優しさをもつのか（language softening)、好ましい表現とそうでないものとを明確にすることもこの doctor-patient talk の大事な視点であることがわかった。今回の研究ではさらに以下の諸点を目標とする。

- 語彙の選択と指導方法の確立を目指す。これは著者が 2012 年 10 月に出版した *First Aid!看護英語の総合的アプローチ*（金星堂）の、語彙の選択、指導方法に基づく。基本的には、以下の方法で語彙の選択、指導方法を研究していく。語彙の発音、語構成、語幹(stem words, root words)、接頭辞、接尾辞、の分類。今回の研究では、医学英語の略語にも取り組む。

- 読解の指導方法と評価法を確立する。難易度の低いものから難易度の高い読解のためのテクストを新たに書き下ろすことにする。医学の専門領域は、拙著 *First Aid!* の領域と同じ領域とする。

- 「薬」「痛み」「症状」に関する基本的知識を研究、考察する。領域は、拙著 *First Aid!* の医学の専門領域と同じ領域とする。そして、これは専門医の有資格者である研究分担者、及び連携研究者においてのアドバイスに従いつつ実施する。最終的に大学の pre-clinical の学生を対象とした難しすぎない内容を検討してその教材開発を行う。

３．研究の方法

I. 平成 25 年度の研究計画

1. Needs 分析の研究

前回の科研費（基盤研究 C 22520570）の研究と同様に、鹿児島大学の医学部、及び久留米大学の医学部などの学生及び教員に対する Needs 分析を実施する。それに基づいて具体的に、第 2 回目の Needs 分析も実施する。そして、EMP 教育における四技能の内容を絞り込んでいく。(平成 25 年 12 月末を目処とする。)

2. UK、台湾における EMP、EAP の研究と調査

UK における EMP(医学英語)教授法の夏季集中講義の受講、医療機関でのインタビューを実施する。さらに、台湾の ESP 学会での研究、調査、口頭発表、EAP の教育政策の研究と実地調査も実施する。UK における研究と調査。(平成 25 年 8 月末を目処とする。) 台湾での研究、調査。(平成 26 年 3 月を目処とする。台湾の ESP 学会は 3 月に毎年実施されているためである。)

3. Doctor-patient talk の研究と教材開発

English in Medicine. CUP、McCullagh, M & Wright, R.(2008) *Good Practice Communication Skills in English for the Medical Practitioner*. CUP、さらに IALS の EMP のコースハンドアウト他を中心として Doctor-patient talk の研究と教材開発を行う。(平成 26 年 3 月末を目処とする。)

II. 平成 26 年度の研究計画

1. 専門語彙、略語の研究と教材開発

語彙の選択と指導方法の確立を目指す。平成 24 年 10 月に出版した拙著、First Aid! 看護英語の総合的アプローチを中心として語彙の選択、指導方法を考察する。(平成 27 年 3 月末を目処とする。)

2. EMP の読解、指導方法とタスク、評価法を確立する。

年間 30 回分の講義において主に BMJ や他の authentic な英文を中心に検討する。Language focus において語法、表現方法も考察する。読解、聴解のタスクと ICT を導入した教材開発の研究。(平成 27 年 3 月を目処とする。)

3. 香港 ESP 学会、マレーシアの ICLLL 学会での研究、調査、口頭発表、EAP の教育政策の研究と実地調査(香港 ESP 学会、マレーシアの ICLLL 学会は平成 26 年 12 月に開催されている。)

III. 平成 27 年度の研究計画

1. BMJ 他、英文の学術論文のテクスト分析を Eva Text Analysis において実施してテクストの表層言語的特徴を理解する。さらにタスクと教材開発も行う。(平成 27 年 12 月を目処とする。)

2. 薬、症状、痛みに関する研究 （平成 28 年 3 月を目処とする）

3. ICT を導入した教材開発の完成
四技能を導入した有機的・統合的教材開発を ICT を利用した形で完成させる。(平成 28 年 3 月末を目処とする。) この最終的な目的が予定した時間内に達成できなかった場合でも平成 28 年 10 月迄には ICT 導入の教材開発を完成させることを最終的な目標とする。前回の研究でも予定よりも半年早く完成することが出来たので問題ないと判断している。

4. 日本医学英語教育学会、大学英語教育学会 (JACET)、台湾 ESP 学会、マレーシア ICLL 学会などでの口頭発表。(平成 28 年 3 月末を目処とする。)

４．研究成果

まず第一に、医学英語の専門用語の語構成を研究してそれを医学の分野別にまとめたこと。次に、医学における症状、痛み、薬学の基礎的学習事項を必要な限り提言したこと。さらに、医者－患者、また看護師－患者との間における対話を実際の医療現場を想定して対話として提言したこと。これらの諸点を統合的な教材として「First Aid! 看護英語の総合的アプローチ」として出版したことが考えられる。

第二に、医学英語、看護英語に関する口頭発表を国内の学会において二回実施したことが挙げられる(JACET)。さらに、 国外はマレーシアの国際学会において口頭発表した。これらの二点が本研究において研究成果として考えられる。

第三に、英国の University of Bristol, University of Edinburgh での Pre-sessional Courses of English for Medicine の実態を現地へ出て直接担当者とのインタビューを実施したことも大きな成果として考えている。両大学ともそこの医学部に入学が決まっている学生しか Pre-sessional Course of English for Medicine へは出席を認めないということであった。

上記の中の最初の二点はさらに具体的には以下の諸点に集約される。

１.専門語彙、略語の研究と教材開発：平成 24 年度に出版した拙著 First Aid!:看護英語の総合的アプローチを中心とした語彙の選択、語構成に関しての研究計画をほぼ終了できた。

２．読解、聴解に関してはその英文、聴解文対話を完成させたものの、内容が難しくなりすぎて再考する必要が出てきた。特に読解分はその内容が書き下ろしで難しくなりすぎて限られた授業時間数では指導が困難なことがわかった。さらに聴解文の (Nurse-Patient Talks), (Doctor-Patient Talks)も初心者の学生にとっては難しいとの判断で再考が求められた。

３．マレーシアでの国際学会で Task Based Instruction in English for Nursing: A Case Study のタイトルで口頭発表してきた。マレーシア、シンガポールなどの東南アジア諸国における EMP (English for Medical Purposes) や (English for Nursing)は、専門との橋渡し的な English for General Academic Purposes (EGAP) との印象を持った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０　件）

〔学会発表〕（計　3　件）

(1) 発表者：Akihiko Higuchi
題目：　Teaching English for Medicine: Roles of Language Teachers
場所：熊本大学 熊本県　熊本市
学会：JACET ESP 研究会
期日：2016 年 3 月 26 日

(2) 発表者：Akihiko Higuchi
題目：Task – Based Instruction in English for Medicine: Advantages and Disadvantages
場所：　西南学院大学　福岡県　福岡市
学会：JACET　東アジア英語教育研究会
期日：2015 年 5 月 16 日

(3) 発表者：Akihiko Higuchi
題目：Task-Based Instruction in English for Nursing: A Case Study
場所：Langkawi,　KEDAH, Malaysia
学会：The Fifth Teaching & Learning of English in Asia
期日：2014 年 10 月 27 日～30 日

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

○取得状況（計　０　件）

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

樋口晶彦（HIGUCHI, Akihiko）
鹿児島大学・法文教育学域教育学系・教授
研究者番号：20189765

⑵研究分担者

橋口知（HASHIGUCHI, Tomo）
鹿児島大学・法文教育学域教育学系・教授
研究者番号： 90315440

J Tremarco（TOREMARCO, John）
鹿児島大学・教育センター　准教授
研究者番号：60389096